

2014年2月5日

(ご参考)

マツダ株式会社
2014年3月期 第3四半期 決算説明会
(スピーチ要旨)

代表取締役社長兼CEO

小飼 雅道

1. 総括

2014年3月期第3四半期累計実績の総括です。

財務実績は、SKYACTIV搭載車両の販売拡大等により、対前年で増収増益となりました。

売上高は1兆9,402億円、営業利益は1,246億円、当期純利益は774億円です。

グローバルで販売好調なCX-5、Mazda6／アテンザが販売を牽引し、販売台数は95万3千台となりました。主要市場に順次導入している新型Mazda3／アクセラの販売も順調です。第2四半期累計実績の総括です。

通期の見通しです。

グローバル販売台数は、タイでの需要減の影響を反映して、計画を1万台引き下げ、132万5千台の見通しです。

通期の利益見通しは、為替前提の見直し等をふまえ、営業利益は1,600億円から1,800億円へ、当期純利益は1,000億円から1,100億円へ上方修正します。

メキシコ新工場は、計画通り2014年1月より量産を開始しました。

SKYACTIVによるビジネス革新やグローバル生産体制の再構築への取り組みなど、構造改革プランは確実に進捗しています。

また、好調な業績動向により、配当予想を期末配当より1株当たり1円に修正します。

加えて、株式併合および単元株式数の変更を実施予定です。

常務執行役員

古玉 尚

2. 2014年3月期 第3四半期累計実績

連結売上高は、対前年26%増の1兆9,402億円となりました。

連結営業利益は1,246億円と、前年同期に対して1,050億円改善しました。これは主に、SKYACTIV搭載車両による台数・構成の改善と円高修正による増益効果によるものです。

経常利益は931億円、税引前利益は900億円、当期純利益は774億円でした。

また、第3四半期での営業利益は506億円、営業利益率は7.4%と、収益性も着実に向上しています。為替レートは平均で1ドル99円、1ユーロ132円と、前年に比べ、ドルで19円、ユーロで30円の円安でした。

グローバル販売台数は、前年に対し7%増の95万3千台でした。

地域別では、SKYACTIV商品の展開が進んでいる日本、北米、欧州で好調な販売となり、前年を上回りました。また、CX-5が販売好調の中国でも前年を上回る実績となりました。

車種別では、グローバルで販売好調なCX-5とMazda6／アテンザが販売を牽引しました。

新型Mazda3／アクセラは北米に続き、欧州、日本へ導入しており、立ちあがりは順調です。

また、アテンザはRJCカー・オブ・ザ・イヤーと日本カー・オブ・ザ・イヤー エモーショナル部門賞を受賞しました。

新型Mazda3も北米・欧州でカー・オブ・ザ・イヤーにノミネートされるなど、SKYACTIV搭載車両が引き続き、内外で高い評価を頂いています。

第3四半期累計でのSKYACTIV搭載比率は48%に上昇しました。今後も、SKYACTIVによるビジネス成長をさらに加速させてまいります。

続いて、各マーケットの状況について説明します。

まず日本では、対前年8%増の16万2千台でした。シェアは前年に対し0.1ポイントアップの4.2%となりました。新型アクセラは発売から2ヶ月で、約2万1千台の受注を獲得するなど、順調な立ちあがりです。CX-5は2年連続でSUV国内年間販売台数1位を獲得しました。

アテンザやSKYACTIV技術を搭載したプレマシー、ビアンテも好調を維持しています。

北米では、対前年7%増の28万9千台の販売でした。

米国では対前年5%増の20万6千台でした。フリート販売を抑制するブランド価値向上の方針を継続・強化しており、ノンフリートでは16%増の販売を達成しました。

CX-5、Mazda6は引き続き販売好調で、高グレード車両の高い販売構成を維持しています。

また、新型Mazda3が小型セグメントで最高残価を獲得するなど、高い残存価格を実現しています。

メキシコでもSKYACTIV搭載車が好調で、過去最高の販売台数を達成しました。

欧州では、全需が前年並みの中、対前年21%増の14万4千台の販売でした。

SKYACTIV搭載車両が販売を牽引し、主要国であるドイツ、ロシア、英国などで販売好調です。

ドイツでは需要が微減となる中、対前年20%増の3万3千台の販売でした。

ロシアでは対前年3.2%増の3万3千台と、現地生産のCX-5、Mazda6が販売を牽引しています。

英国でも両車種が好調で、対前年34%増の2万2千台の販売となりました。主要国で、新型Mazda3の導入を第3四半期から開始しており販売は好調に推移しています。

中国では、対前年9%増の14万1千台の販売でした。

8月に導入した現地生産のCX-5が販売を牽引しました。

このCX-5導入を機に、SKYACTIVを中心としたマツダブランド広告を継続強化しています。

また、店舗数は前期末から36店舗増えて、12月末では432店舗と、販売網の拡充も着実に進捗しています。

その他市場では、21万7千台の販売でした。

オーストラリアでは、販売は7万6千台、シェアも8.9%と好調を維持しています。メーカー別販売では3位、セグメント販売台数では、CX-5が首位となるなど引き続き好調です。

ASEANでは、マレーシアが過去最高の販売台数を達成し、タイの需要減による台数減を一部オフセットしました。

その他市場では、チリ、ペルー、サウジアラビアなどが過去最高の販売台数を達成しました。

次に、連結営業利益の前年に対する改善額1,050億円の主な要因について説明します。

台数・構成では、458億円の改善となりました。グローバルで販売好調なSKYACTIV搭載車が、収益にも大きく貢献しています。

為替は、USドルで324億円、ユーロでは326億円、その他通貨は320億円と、合計で970億円の改善となりました。

変動コスト領域では、コスト改善の推進により131億円の改善となりました。

販売費用は、Mazda6、Mazda3のグローバルローンチに伴う広告宣伝活動強化などにより、233億円の費用増となりました。

また、その他固定費領域では、開発費、メキシコ立ち上げ費用等、将来に向けた成長投資により、276億円の費用増となりました。

3. 2014年3月期 見通し

通期利益見通しを10月公表に対して上方修正します。

売上高は2兆6,800億円、営業利益は1,800億円、当期純利益は1,100億円の見通しです。

営業利益については、前年から1,261億円の改善、10月公表からは200億円の増加の見通しです。

それぞれの要因については、後ほどご説明します。

通期での為替見通しは、ドル・ユーロそれぞれ、99円、133円です。

グローバル販売台数は、前年比9万台増の132万5千台の見通しです。

10月見通しに対しては、主にタイでの需要減影響により1万台減の修正とします。

第4四半期の販売取り組みについては、後ほどご説明します。

続きまして、前年からの営業利益改善1,261億円の要因について説明します。

台数・構成では、SKYACTIV搭載車両の販売拡大により590億円の改善見通しです。

為替は、USドルで380億円、ユーロで384億円、その他通貨で336億円改善し、トータルで1,100億円の改善となる見込みです。

コスト領域では、原材料価格値上げをオフセットし207億円改善する見込みです。

販売費用は、グローバルでのSKYACTIV搭載商品を中心とした広告宣伝活動強化により204億円増加します。

また、その他固定費は、開発費の強化およびメキシコのローンチ費用等により432億円増加の見通しです。

次に、10月公表からの営業利益変動200億円の要因について説明します。

台数・構成では、計画を1万台引き下げたこと等により30億円の減少見通しです。

為替は、第3四半期の実績および第4四半期前提の見直しを踏まえ、USドルで58億円、ユーロで73億円、その他通貨で69億円改善し、トータルで200億円の改善となる見込みです。

コスト領域では、さらなるコスト改善の推進により50億円の改善、その他固定費領域では20億円の費用増を見込んでいます。

それでは、第4四半期の販売取り組みについて、説明します。

最量販モデルである新型Mazda3／アクセラは、第3四半期に、日本・北米・欧州など主要市場で導入を開始しました。これら導入市場において、CX-5やMazda6／アテンザ同様、商品価値訴求による一貫した正価販売を推進していきます。

米国では第3四半期は現行モデルの売切りもありソフトローンチ期間中でしたが、第4四半期から本格的な広告宣伝活動を開始し、更なる販売増を図ります。

また、2月よりオーストラリアでも導入を開始しました。

地域別には、中国では、SKYACTIVの認知度向上のための広告宣伝活動と、地域モーターショーへの継続出展による、CX-5の更なる受注増を図ります。

タイでは昨秋導入したCX-5による販売上乘せと、3月に導入予定の新型マツダ3の予約受注の最大化を目指してまいります。

代表取締役社長兼CEO

小飼 雅道

4. 構造改革プランの進捗

構造改革プランの進捗について、4つの柱に沿ってご説明します。

まず、SKYACTIVによるビジネス革新ですが、CX-5、Mazda6といった新世代商品の導入に伴い販売力強化の施策に取り組んでおります。ネットレベニュー(実売価格)の改善、ユーザー層の変化など着実に成果は出ています。今後、新型Mazda3のグローバルでの導入においても、このような販売施策を推進していきます。

またコスト面では、新型Mazda3においても、CX-5、Mazda6と同様、モノ造り革新によるコスト改善を実現しています。将来の更なる成長に向けた開発/設備投資の効率化も強化していきます。

マツダのグローバル生産体制の再構築において最重要プロジェクトであるメキシコ新工場は、計画通り2014年1月に新型Mazda3の量産を開始することができました。今後の生産拡大を順調に推し進め、来期以降の台数成長に繋げていきます。

グローバルアライアンスについては、商品/技術/地域の補完を目指す方針を引き続き推進してまいります。

5. まとめ

第3四半期累計実績は、SKYACTIV搭載車両の販売拡大等により、対前年で増収増益となりました。順次、主要市場に導入をすすめている新型Mazda3／アクセラの販売は順調です。引き続きSKYACTIV搭載車両がグローバルで販売を牽引しています。

通期見通しは、営業利益1,800億円、当期純利益1,100億円に上方修正します。

SKYACTIV搭載車両の投入やメキシコ工場の量産開始など、構造改革プランは確実に進捗しています。

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして取り組んでまいりました。

今回の通期業績予想の修正および事業環境の改善等により、期初予想では当期配当予想を無配としておりましたが、期末配当より1株当たり1円に修正します。

配当額は、利益剰余金の状況からして現時点で出来る限りの金額ですが、出来るだけ早い株主還元の責務を果たすべきと判断いたしました。

また、本日開催の取締役会において、6月開催予定の定時株主総会に、株式併合および単元株式数の変更にかかる議案を付議する事を決議いたしました。

時価総額に対する発行済み株式総数の適正化を図るため、普通株式5株を1株に併合し、あわせて、単元株式数を1,000株から100株に変更いたします。

この株式併合と単元株式数の変更により、会社の資産や資本が変わることはありませんし、株主様が保有する当社株式の価値が変わることもありません。

4期ぶりの復配となりましたが、今後も安定的な配当の実現と、着実な向上に努めてまいります。

以上